

県指定

史跡

長岩横穴群

ながいわよこあなぐん

県  
11

所在地

小原・  
志々岐

地図

P.141 24



108・109号横穴装飾（盾・人物）



64～70号横穴



48号横穴装飾（人物）



108・109号横穴装飾（盾・人物）

長岩横穴群は、志々岐<sup>しじ</sup>台地の南端から西端の崖にあり、高さ一〇呎前後の絶壁に掘られています。時代は古墳時代後期（六世紀）と思われ、岩壁に沿った約五〇〇呎の間に大小合わせて一二〇基あります。装飾のある横穴は一二基（現存は一一基）で、周辺の横穴群のなかで中心的位置にあります。装飾の横穴では外壁に浮彫<sup>うきぼり</sup>彩色した盾の装飾をはじめ、両手足を広げ大の字形に立った人物像の浮彫が目を引きます。

（池上）

県指定

史跡

城横穴群

じょうよこあなぐん

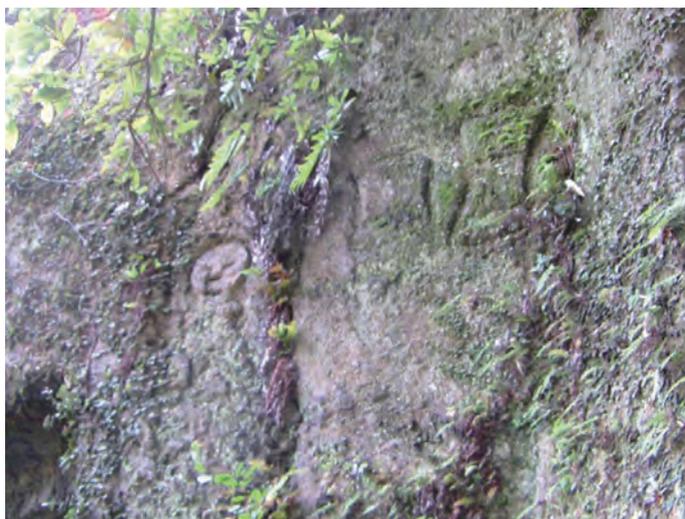
県  
12

所在地

城  
字城

地図

P.141 25



20・21号横穴装飾（人物・盾・韃）



遠景



15・16号横穴

城台地の崖面に四六基が確認されていますが、二〇号と二一号横穴の間にある装飾が有名です。そこには人物、盾、韃の浮彫が施されています。人物は、腕白小僧が駄々をこねているような愛嬌のある姿をしています。

横穴内部には屋根形の天井、造りつけの石枕のほか、少なくとも三体を葬ったと見られる仕切りのある横穴も見られます。

時代は古墳時代後期（六世紀）頃のものと考えられています。

（福本）



玄門の装飾（連続三角文）

県指定

史跡

馬塚古墳

うまつかこふん

県  
13

所在地

城  
字鬼天神

地図

P.141 26



玄室石壁



墳丘

内部は横穴式石室からなる、円墳です。かつて立派な馬具類があったことから馬塚と呼ばれ、「馬の神様」として信仰されてきました。

玄室奥壁おくへき沿いに家形石棺があったらしく、棺蓋の破片が残っています。玄室奥壁は割った石を小口積みにしてもいますが、左右の側面の壁は板状の巨石を立てて使用し、新しい手法が取り入れられています。玄門には赤、白、灰色で描かれた三角文などの装飾が残っています。

時代は、古墳時代後期（六世紀）頃とされています。（福本）

県指定

史跡

桜の上横穴群

さくらの上よこあなぐん

県 14

所在地

鹿央町

岩原

地図

P.141 27



1号横穴



1号横穴保存施設



2号横穴

岩原古墳群のある台地の北東に位置し、現在二三基確認されています。陥没により詳細不明の三号を除く一号から六号までは複室構造で、玄室内には装飾文や彩色が認められています。特に一号は、羨門から奥壁まで六・九呎を測る壮大なもので、県内で最も精美な横穴墓とされます。また、出土品には、須恵器片、鋤先、金環（イヤリング）、人骨、飾り金具等が見つかっています。

一号横穴は、内部構造の保存状況が大変良好で、現在は内部保存を図るために保護施設が設けられています。

（多田隼）



近景



遠景

標高六〇以上の平坦な台地上にあります。圃場整備事業に際し、昭和四十二年十二月熊本県教委により試掘された結果、幅一・八メートルある巨大な石棺の一部が確認されました。未発掘で、蓋に装飾状の彫刻が見られました。内部主体が重要と考えられて、急遽県の史跡に指定されました。

持松台地には、数個の古墳があったとされていますが、いずれも封土を失っており、この塚原古墳のみが墳丘を残しています。墳丘は周囲から削り取られて小さくなり、まるで方墳のように見えますが、まぎれない円墳です。

(多田隈)

県指定

史跡

持松塚原古墳

もちまつつかばるこふん

県  
15

所在地

鹿央町  
持松

地図

P.141 28

県指定

史跡

付城横穴群

つけじろよこあなぐん

県  
16

所在地  
城  
字付城

地図  
P.141 29



67号横穴



崖面に横穴群が連なる

崖面に九六基の横穴墓が上下五〜六段にわたって造られています。

中央付近の三基には鋸歯文の線刻や赤色の同心円等の装飾があります。また複室の横穴も一基見られます。

時代的には、近くにある馬塚古墳と同時代の古墳時代後期（六世紀）頃のものではないでしょうか。（福本）

県指定  
史跡  
津袋古墳群  
しづくろこふんぐん  
県 17  
所在地  
鹿本町  
津袋、高橋  
地図  
P.140 30



津袋大塚古墳



頂塚古墳

平原塚古墳石棺



茶臼塚古墳



小町塚古墳



五社宮塚古墳



朱塚古墳

茶臼塚古墳、小町塚古墳、五社宮塚古墳、平原塚古墳、朱塚古墳、大塚古墳、頂塚古墳の七基の古墳からなる古墳群です。菊池川流域では最も古く、古墳時代前期から中期までの古墳の変遷を示すものとしても貴重です。頂塚古墳を調査したところ、舟形石棺が見つかり、そこからは滑石で作られた長さわずか五ミ程度の小型勾玉が数十点出土しました。

また、茶臼塚古墳は、地元では一本松と呼ばれ、天授元（一三七五）年、足利幕府から菊池氏討伐を命じられた今川了俊が、陣を構えた場所としても有名です。

（芹川）

県指定

史跡

御霊塚古墳

ごりょうつかごふん

県  
—  
18

所在地

鹿本町

津袋

地図

P.140 31



玄室右壁装飾（同心円・盾・鞆）



墳丘



玄室左壁・玄門装飾（同心円・円）



玄門外側から

津袋の東に突き出た段丘上に二つの古墳が東西に並んでいます。西側を御霊塚古墳（一号墳）と呼んでいます。

六世紀後半から七世紀初めに造られた横穴式石室を持つ円墳で、上内田川・木野川流域では唯一の装飾古墳です。

石室の壁には、赤で描かれた矢筒（鞆）や円文などが描かれています。平成十二年に行われた調査の結果、赤のほか白も使った同心円文や連続三角文が新たに確認されました。（芹川）



I群



I群



I群 14号横穴 檐ベソ



I群 14号横穴 奥屍床

県指定

史跡

## 岩原横穴群

いわばるよこあなぐん

県  
19

所在地

志々岐、  
鹿央町岩原

地図

P.141 32

岩原横穴群は、岩原台地（阿蘇熔結凝灰岩）の崖面にあります。その台地の周囲約五〇〇㊦の範囲に一三一基が分布しています。また、台地の地形から大きく六群に分けられています。

そのうち八基に装飾文様があります。I群一四号横穴にはゴンドラの舟縁の形に檐ベソを持った屍床があり、舟葬思想をうかがわれます。また、横穴の内側の形は「コ」字形の屍床が多く見られます。駐車場や案内板もあり、間近に横穴墓を眺められます。（池上）